

二ユース早分かり

特別支援学校の運動部

障害のある児童・生徒が通う特別支援学校の4割がスポーツの部活動やクラブ活動を実施していません。

【Q】特別支援学校とは何ですか。
【A】視覚、聴覚、知的、病弱など、障害の程度が比較的重い子どもを対象として

特別支援学校のスポーツ部活動

※全国特別支援学校長会調べ



- 必要な事項
- 教員の専門知識・ノウハウの習得
 - 外部人材を確保
 - 保護者による送迎負担を軽減
 - 用具を購入する予算

障害に応じた工夫が必要 生きがい得る生徒も

た学校です。

【Q】部活動の実態は。

【A】全国特別支援学校長会による調査で分かります。2016～17年に実施した全国の特別支援学校179校から回答がありました。運動部などの活動を行っているのは699校(59%)にとどまり、残りの480校(41%)は行っていません。

【Q】障害があると運動は難しくありませんか。

【A】確かに集団で同じ競技をするのが難しい場合もあります。しかし、例えば近年注目を集めている「ポッチャ」は球を投げる際に滑り台のような補助員を使うことが認められ、重度の障害がある人も楽しんでいきます。障害の程度に応じた工夫が大切です。

【Q】スポーツはどのような効果がありますか。

【A】子どもが生きがいを見つけたら、仲間と喜びや悔しさを分かち合ったりする効果が期待できます。重度の脳性まひで日常生活では介助を受ける中学生がポッチャに出会い「パラリンピックに出たい」という人生の目標を見つけた例がありました。国も2020年の東京パラリンピックを契機に、障害者スポーツの拡大を目指しています。

【Q】部活動を実施するための課題は何ですか。

【A】専門知識を備えた指導者を増やす必要があります。教員には十分なノウハウがありません。外部指導員がいる学校はわずか13%でした。また、障害者スポーツの用具は高額な場合

が多く、予算が足りないのも課題です。放課後や休日に行う際の保護者による送迎や、活動を支える多くの教員の確保も負担が大きいと指摘されています。

【Q】活動は広がりそうですか。

【A】はい。国立特別支援教育総合研究所(神奈川県横須賀市)は障害のある子どもを担当する教員向け研修に、18年度からスポーツ講習を加えました。学校現場でスポーツに取り組みきっかけにしよう狙っています。

【Q】誰もが気軽に運動できると思いますか。

【A】学校の枠を超えた地域ぐるみの活動も始まりました。東京都内の特別支援学校では子どもや高齢者、運動が苦手な人など、誰でも参加できるポッチャ体験教室を開催しています。